

## 趣旨説明

石井 敦 東北大学東北アジア研究センター 准教授

まず、タイトルの「フューチャー・アース」は「超学際科学」と呼ばれる領域の国際的枠組みです。従来の環境問題の研究は、学術研究の業績を上げることを最優先に行われており、政策に直接寄与することがあまりありませんでした。その反省のもとに「超学際科学」は、科学者だけで研究するから良くない、ということで、どういう研究をすべきかを、ステークホルダーの方々と一緒に考え、問題解決に貢献することを提唱しています。

私も「超学際科学」に携わり、フューチャー・アースの勉強会も主宰しています。しかし、文系の研究者の方々があまり関わっていません。フューチャー・アースは、グローバルな研究と地域とをどのように結びつけていくのが課題となっており、その方法論などがわからない状態が続いています。運営委員長の塩谷昌史氏とこの講演会のお話をしている時に、JCASと共催するので、この問題を本シンポジウムで考えようと企画しました。

JCASがフューチャー・アースとどのように関わるべきか、関われるならどのように協力するか御議論いただきたいと思います。本日、この問題を考えるために最適のゲストスピーカーをお招きしました。安成哲三先生と井上真先生です。

安成先生は、フューチャー・アース本体の科学委員会の委員、日本学術会議のフューチャー・アース推進委員会の委員長、総合地球環境学研究所長という要職に就かれています。フューチャー・アースの国際的展開だけでなく、日本の展開も牽引されています。

今日はフューチャー・アースの具体的な御紹介と、フューチャー・アースにアジアとして取り組むのがどれほど重要なのか、我々アジアに住む研究者はフューチャー・アースの推進を担わなければならない責任があることについて、お話しいただけたと思います。

お二人目は井上先生です。御自身は超学際科学研究の業績も多数おありで、今日は御自身のケースを御紹介いただき、フューチャー・アースに問いかけをしていただく御発表になっています。

研究者の皆様にはフューチャー・アースに御協力いただきたいことと、一般の方々にはステークホルダーとして「超学際科学」に御参加いただき、一緒に双方向のコミュニケーションを取り研究に参加していただきたいと思います。

## ■ 執筆者紹介

- ①氏名(ふりがな): 石井 敦 (いしい・あつし)
- ②所属・職名: 東北大学東北アジア研究センター・准教授
- ③生年と出身地: 1974年、神奈川県
- ④専門分野・地域: 科学技術社会学、国際関係論、日本
- ⑤学歴: 筑波大学大学院社会工学研究科 (中途退学)
- ⑥職歴: 2001年4月～2004年9月まで国立環境研究所NIESアシスタントフェロー、2004年10月より現職。
- ⑦研究手法: フィールドは主に国際交渉会議なので、経験を積めば積むほど、関連ネットワークが広がっていきます。研究手法としては、フィールドの経験は参与観察をとおして研究で活かされます。
- ⑧学会: International Studies Association、日本国際政治学会、環境経済・政策学会
- ⑨研究上の画期: 1992年のブラジル・リオデジャネイロで開催された地球サミットによって、環境問題は国際政治の欠かすべからざる構成要素の一つになりました。
- ⑩推薦図書: Takacs, David (1996) *The Idea of Biodiversity: Philosophies of Paradise*. Baltimore: Johns Hopkins University Press.